

令和3年度 第1回 諏訪市まち・ひと・しごと創生本部会議 会議録

○ 日 時

令和3年10月18日（月）午後1時30分～2時45分

○ 会 場

諏訪市役所5階大会議室

○ 出席者

＜本部長＞

金子市長

＜副本部長＞

後藤副市長、小島教育長

＜本部員＞

松木総務部長、前田企画部長、金子市民環境部長、守屋健康福祉部長、

樫尾建設部長、茅野水道局長、細野教育次長、藤森議会事務局長

＜幹事＞

三村総務課長、細野秘書広報課長、寺島企画政策課長、伊藤財政課長、

藤森地域戦略・男女共同参画課長、柿澤こども課長、矢崎健康推進課長、

宮坂商工課長、伊藤観光課長、金子都市計画課長、柳平教育総務課長

＜事務局＞

下澤企画政策係長、茅野企画政策係主査、前田企画政策係主査

○ 会議結果

- ・諏訪市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証結果（案）について、承認を受けた。

○ 会議概要

1 開会

（前田企画部長）

- ・第1回諏訪市まち・ひと・しごと創生本部会議を開催する。

2 本部長挨拶

（前田企画部長）

- ・会議開催に先立ち、本部長である金子市長より挨拶がある。

（金子市長）

- ・令和3年度第1回諏訪市まち・ひと・しごと創生本部会議にご出席いただきありがとうございます。
- ・本日は令和2年度の諏訪市の地方創生に対する取組、諏訪市まち・ひと・しごと創生総合戦略について、庁内での効果検証結果を確認し、諏訪市まち・ひと・しごと創生有識者会

議の議題とする内容を確定する。

- ・現在、諏訪市では第六次諏訪市総合計画を策定中。これは、次期諏訪市まち・ひと・しごと創生総合戦略を一体化したものになる。
- ・第六次諏訪市総合計画では「魅力の架け橋 高原湖畔都市」を将来像としている。地方創生という面でも、同じ将来像を目指し、部局や課所を越えた連携により、諏訪市の魅力を高めていくこととなる。
- ・取組について、結果が出た、出なかっただけでなく、その理由を分析し次の取組につなげていくという、PDCAサイクルをまわしていく必要がある。
- ・令和2年度は、予期せぬ新型コロナウイルス感染症という要因もあり、数値にはその影響が大きく表れているが、そこから次につながるヒントをつかむことが重要。今後の取組につながる、そんな会議にしたい。本日は、よろしくお願いいたします。

(前田企画部長)

- ・以降の進行については、本部長である金子市長にお願いしたい。

3 議事

(1) 諏訪市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証結果について

①効果検証について

(本部長)

- ・それでは、議事に入る。「(1) 諏訪市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証結果について」
- ・「①効果検証について」、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

※資料1に基づき説明

(本部長)

- ・ただいまの説明について、質問・意見をお伺いしたい。

(※意見等なし)

(本部長)

- ・続いて、「②総合戦略効果検証結果(案)」について、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

※資料2に基づき、効果検証結果(案)概要について説明

(事務局)

※資料2に基づき、効果検証結果(案)一之柱の効果検証について説明

(本部長)

- ・ただいまの説明について、質問・意見をお伺いしたい。

(※意見等なし)

(本部長)

- ・続いて、二之柱について、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

※資料 2 に基づき、効果検証結果（案）二之柱の効果検証について説明

(本部長)

・ただいまの説明について、質問・意見をお伺いしたい。

(A 本部員)

・生産年齢人口は減少しているが、社会増になっている。これについての考えを知りたい。

(事務局)

・生産年齢人口の減少は少子高齢化から全体的には避けられない。しかし社会増については、生産年齢人口が中心であると思っている。人材確保という観点から、社会増は即効性がある。しかし、長い目で見ると、次の三之柱の自然増も重要。今後人材となる若い方を増やしていくことを見据えた取組が必要ではないかと分析している。

(A 本部員)

・傾向的には、県外の方が転入しているというよりも、圏域内の異動が多いと思う。しかし、圏域内であっても諏訪市には魅力があり、諏訪市に住んでみたいと思うようなことが重要だと思う。結婚したら一度諏訪市に住むが、家を建てるときに転出するということもある。それでも一旦諏訪市に住んでいただき、社会増、生産年齢人口が増加するという効果はある。そこは大事にしていきたい。

(本部長)

・続いて、三之柱について、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

※資料 2 に基づき、効果検証結果（案）三之柱の効果検証について説明

(本部長)

・ただいまの説明について、質問・意見をお伺いしたい。

(※意見等なし)

(本部長)

・続いて、四之柱について、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

※資料 2 に基づき、効果検証結果（案）四之柱の効果検証について説明

(本部長)

・ただいまの説明について、質問・意見をお伺いしたい。

(B 本部員)

・52 ページの病児病後児保育の利用者数。令和 2 年度に大きく減っている。それまでは大体 500 人前後であった。利用者が減ったことはわかるが、体調が悪い場合に預ける家庭も多くなるのではと思う。大きく減少している理由がわかれば教えていただきたい。

(C 本部員)

・私も結果を見て驚いたが、コロナ感染の疑いがあるような状況になると病児病後児保育で対応できないということもある。また、病院に行くだけでも感染が怖いと思ってしまうよ

うな状況であったという話も聞いている。

- ・そんな中で発熱したり風邪をひいた場合でも、ステイホームしていた方、自宅療養していた方が多かったのではと考えている。
- ・状況については今後も受入れをいただいている医院に聞き取りをしていきたい。

(B 本部長)

- ・親がコロナに感染した時のいわゆる子供の行き場、受け皿はどのようなのかという話がよく話題に上がる。そういった時にこの病児病後児保育が利用されているのかと思い質問をした。そのような場合の対応についても頭に入れておいたほうがよいと思った。

(本部長)

- ・去年はインフルエンザの患者が激減した。夜間小児救急医療センターの利用も減少しているが、いろいろな要因があると思う。
- ・病児病後児保育については要望があり充実してきている。
- ・このように受け皿は増えているが、子育てのしやすさにつながっているのか。これまでの動きを踏まえて一度検証してみることも必要である。

(D 幹事)

- ・諏訪市は 16 年ぶりに社会増に転じたということだが、要因について何か分析をされているのか。
- ・新型コロナウイルスの影響によって、K P I の実績が減少したもの、増えたものもある。そういった特殊な要因のものは一覧にするとわかりやすいのではと思う。

(事務局)

- ・どこの市町村から諏訪市に転入してきているか、どこに転出しているかというものについて、詳細の公表はできないが毎年把握している。
- ・去年は社会増となったが、期待されていた東京など首都圏からの移住については、逆にマイナスとなっている。長野県内もマイナス。諏訪圏内からの異動がプラスという状況。異動の理由は推測になるが、年齢等をみると、家を建てる方は外に出ていってしまう傾向がある。
- ・そんな状況下にあるが、結婚された方や就職された方が、立地の良さから諏訪市に転入しているのが一つのプラス要因。近年分譲地が諏訪市内でも増えている。そこに家を建てる方、そこもプラスの要因だと分析している。
- ・ただ、やはり圏域内で取り合うのではなく、外から連れてくる必要がある。外からしっかりと諏訪圏域内に連れてくるということが、諏訪圏の魅力の向上、地方創生という面でも重要ではないかと思う。
- ・もう 1 点。コロナの影響をまとめた資料について。議会等の説明でも注目されるポイントではあるので検討したい。

(E 本部長)

- ・K P I について、5 ページに掲載されているが、概ね順調が対前年度マイナス 9 事業、努力が必要はプラス 16 事業ということになっている。その中で、四之柱の概ね順調が対前年マイナス 9 事業。努力が必要はプラス 12。この柱の影響は大きい。
- ・教育委員会の関係では、博物館の入場者数や、すわっチャオの入館者数というようなアウ

トプット型K P Iはこういう結果になってしまっている。

- ・第六次諏訪市総合計画では、アウトカムでのK P I設定をしている。このK P Iの設定と
いうのがいかに重要かというのを改めて感じている。

(本部長)

- ・例えば入館者数だけではなく、来てくれた人の満足度について調査をするなど工夫する必
要はあるかもしれない。知恵を出し合い、進めていければいいと思う。

(F本部員)

- ・冒頭の市長挨拶及びO本部員の発言と全く同じ考え方を持っている。数値目標のうち、福
祉分野についても、アウトプットの指標については軒並み下がっている。
- ・K P Iによる評価であり、達成度を修正するという話ではないが、担当課とすれば、そう
いった状況を、手をこまねいていたわけではなく、しっかりと対応してきた結果である。
やるべきことをみんなで考えてやった結果であることは本部員会議では共有したい。
- ・これまで、福祉はどちらかというか寄り添い型の支援。これを色調としてきた。この方向
性は変えずとも、感染症収束後に向け、量から質へという施策を展開していく必要がある
と思っている。
- ・そういった部分から指標もしっかりとアウトカムに移行していかないといけない。アウト
カムに移行して評価をしていかないと、どうしても課題の本質、これを見逃してしまうの
という危機感を覚えながら、今回このデータを見ている。

(事務局)

- ・影響を受けると数値にもそれが表れる。ただ、地方自治論を専門とする学識者からは、本
来の目的は数値のチェックだけで終わらずに、どのように改善していくか、取組の中でP
D C Aサイクルをしっかりとまわしていくことが本当は重要だという話を聞いている。
- ・しかし、我々も国から補助金や交付金をいただいている。そうすると、どうしても国の方
針には追従しなくてはならない。
- ・K P Iは一つの客観的な指標として、非常に役立つものだが、しっかりと改善までしてい
くことが重要だと思っている。第六次諏訪市総合計画でもそのような取組をお願いしたい。

(本部長)

- ・参加者数が、新型コロナウイルス感染症により相当影響を受けているが、参加者数は目標
として意味がないのかというそうではない。だが、それだけでいいのかと考えると、本
質に関連する指標を持つことも必要。
- ・次の活動につなげていくような動きもしてもらいたい。

(A本部員)

- ・この総合戦略を策定したときにもこのような議論があった。当時は各担当課も迷いながら
数値を決めていた経過がある。
- ・新型コロナウイルス感染症を経験して、数値の考え方に対して大分熟度が増してきた。第
六次諏訪市総合計画を策定する過程でも、それを感じている。各担当において、本日の意
見を踏まえ、何が諏訪市に必要なのかというところを検証し、総合計画に反映させていた
だきたい。
- ・その中で、総合戦略を策定する時に中心となったしごとの部分であり、製造業に対する数

値目標は最重要視していた。ここで工場等立地促進助成の申請件数が順調に増えている。コロナ禍においても、製造業は業績が伸びているので、こういった政策をさらに加速させるようなものを、ぜひ経済部中心に考えていただきたいと思っている。

(G 本部長)

- ・ 82 ページの小児夜間急病センターの利用者数について、令和 2 年度実績値が 651 人。受診した人、利用した人が少なかったということだが、コロナで受診を控えたということは確かにある。しかし、病気にそもそもかからなかったということもあると思う。マスクやうがい、手洗いをしていた効果がそこにつながった。そこで、努力が必要という表現は気になった。病気にならないことはいいことだと思うが気になる。在宅当番医の利用についても減ったことはよいことだと思う。

(H 幹事)

- ・ この考え方については、救急車の利用、過剰利用を抑えたということが背景にあったのではないかと思っていた。若干、担当課として思い込みがあったのではないかと思うので、再度分析について検討したい。

(I 幹事)

- ・ 改めて K P I の実績を見ると、観光は大きなダメージを受けているということを改めて痛感した。今後も感染症の影響に左右される部分はいろいろとある。しかし、コロナ禍における観光についても今後考えていかなければいけない。大人数、遠くへ行くという旅行が N G とされていることから、マイクロツーリズムという、自宅から 1 時間、地元近隣の宿泊や日帰り観光といった施策転換というのも考えている。
- ・ 観光グランドデザインも今策定中である。そこでも諏訪市の観光資源の整理とともに、課題の整理をしている。諏訪の観光事業者と一緒に、同じ方向を向いて共通認識のもとに、課題に基づいた観光政策を進めていく。今までの水準というのはすぐには難しいかもしれないが、なるべく上を目指していこうと考えている。

(本部長)

- ・ 県をまたがない修学旅行の行き先は諏訪市が断トツで一位だった。コロナ禍でも成果を上げている部分もある。検討を進めてもらいたい。

(本部長)

- ・ いただいた意見等踏まえ再度調整、修正したものを 11 月 8 日開催の「諏訪市まち・ひと・しごと創生有識者会議」の議題として、外部有識者の意見を伺いたい。承認をいただける方は挙手願いたい。

(※挙手多数)

(本部長)

- ・ 承認いただいたことから、これを議題とし有識者から意見をいただくこととする。
- ・ 進行を事務局にお返しする。

4 その他

(前田企画部長)

- ・ 事務局より事務連絡をする。

(茅野企画政策係主査)

- ・修正等あれば 10 月 22 日（金）までに企画政策課へ連絡いただきたい。

5 閉会

(後藤副市長)

- ・本日は大変お疲れ様でした。
- ・第六次諏訪市総合計画には、次期まち・ひと・しごと創生総合戦略が組み込まれていく。その重点目標の中に、稼ぐという趣旨を中心とした重点目標が並んでいくという組立が行われている。
- ・やはり K P I の指標をどのようにとらえていくのか、どのように設定していくのが難しい。アウトプットからアウトカムへと言うは簡単だが、1 年でアウトカムが現れるのかという事業が行政にはたくさんある。
- ・皆さん痛感していると思うが、1 年で何も成果がなくとも、2 年後 3 年後にふと成果が出てくるような、事業もたくさんある。
- ・考えれば考えるほど設定が難しいわけだが、極力、アウトプットからアウトカムにしてい くために、みんなで知恵を絞って考えていければよいと思う。
- ・以上で本会議を終了とさせていただきます。お疲れ様でした。

(閉会 午後 2 時 45 分)